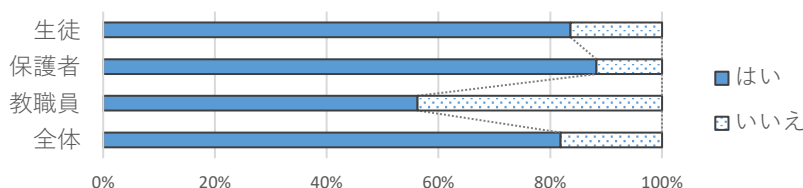


令和4年度学校評価アンケート分析結果 II：規範意識と社会性の育成

1 (1) 基本的な生活習慣（日常の挨拶や身だしなみ等）が身についていますか。

・生徒は8割以上「はい」と回答し、昨年と比較すると約3割増加しました。

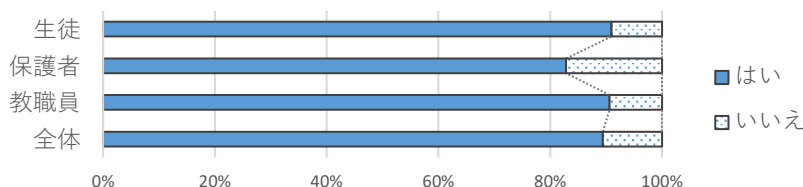
『教職員と生徒・保護者に認識の差がありますが、おおむね規則正しい生活を送ることができていると感じていることが考えられます。』



2 (1) 校則を守っていますか。

・生徒・保護者・教職員ともに8割以上が「はい」と回答しました。

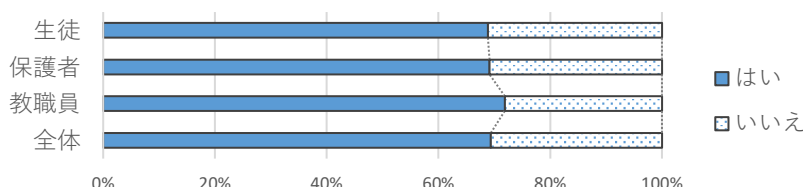
『学校全体が落ち着いており、生徒が学習や諸活動に集中できていることが表れていると考えられます。次年度新しい生徒が入学しても落ち着いた環境を維持できるように、生徒が主体となって安心安全な学校生活を作ることができるよう、規範意識や社会性の育成に努める必要があると考えます。』



3 (1) 本校の生徒会活動（部活動を含む）が活発だと思いますか。

・生徒・保護者・教職員ともに7割程度が「はい」と回答しました。

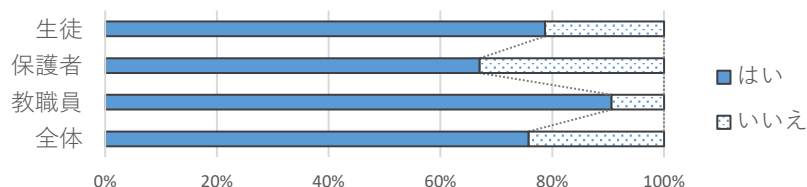
『昨年度よりも微増しています。コロナ禍にあってもほぼ通常どおりの活動を行うことができていたことや、ホームページ上で生徒活動の様子を積極的に紹介するようになったことも影響しているのではないかと考えられます。今後も生徒会活動を活発に行うとともに、活動の様子を保護者や地域に発信することが必要であると考えます。』



3 (2) 生徒会活動（部活動・球技大会等）に参加しましたか。

・保護者の6割以上、生徒・教職員の9割以上が「はい」と回答しました。

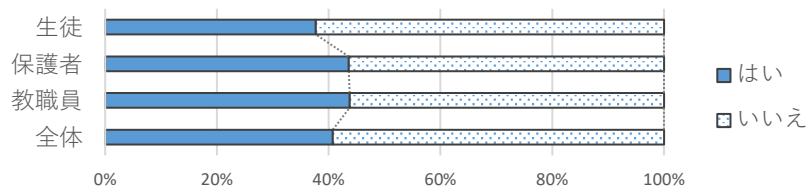
『生徒は昨年度よりやや下がっています。積極的に部活動や諸活動に参加している生徒の活躍が見られる一方で、参加している生徒が限られていることが要因ではないかと考えられます。学校全体で、部活動や生徒会活動の充実を図りながら、より多くの生徒へ参加を促すことが重要であると考えます。』



4 (1) 校外でのボランティア活動に参加しましたか。

・昨年度に比べ、「はい」と回答した生徒が1割増えました。

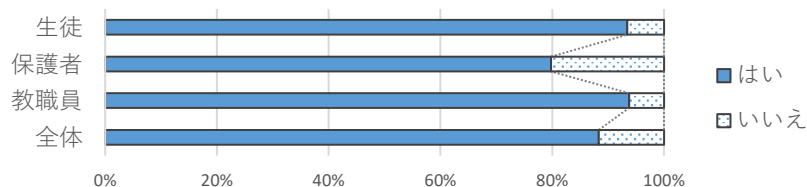
『新型コロナウイルス感染症における行動制限の緩和により、通常の活動に戻りつつあるのではないかと考えられます。一方で、教職員は昨年度よりも2割減少しており、生徒と教職員に認識の差が見られました。学校で行った特別活動として、ボランティア活動は重要な位置を占めるものです。今後も生徒が積極的にボランティア活動に参加できるような働きかけが必要であると考えます。』



5 (1) 避難訓練、薬物乱用防止教室、交通安全教室等で、安全に関する意識が向上したと思いますか。

・保護者の約8割が、生徒・教職員の9割が「はい」と回答しました。

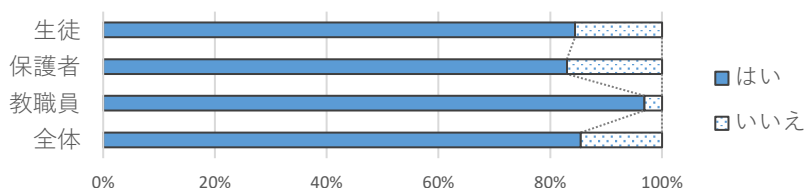
『外部講師を積極的に活用し、実際の状況を想定した訓練を行うことにより、生徒の問題意識や関心を引き出すことができていると考えられます。』



6 (1) 何か困ったことがあったときに、相談できる先生（担任・保護者・スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー・その他の先生）がいますか。

・生徒・保護者・教職員ともに8割以上が「はい」と回答しました。

『生徒の肯定的な回答が昨年よりも増加しています。日頃の会話に加え、年2回の面談や、1年生の全員カウンセリングなど、計画的に実施できていることも影響しているのではないかと考えます。今後も生徒が相談しやすい環境作りに努める必要があると考えます。』



総合所見

全体的に昨年度よりも「はい」という回答が増加していました。新型コロナウイルス感染症における行動制限の緩和により、学校行事や生徒会活動、部活動などほぼ通常どおり行われたことで、生徒が落ち着いて学校生活を送ることができたのではないかと考えられます。一方で、ボランティア活動への参加が依然として少ない状況にあります。また、部活動に参加している生徒も限定的であることから、生徒の様々な体験の幅を増やし、高校生活をさらに豊かなものにするために、今後より多くの生徒に積極的に参加してもらえるような働きかけをする必要があると考えます。